a whaling ship
ほげい船

基本理念

私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。

独立行政法人
国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

病院を進化させるために

NHO高知病院　院長
大串　文隆

平成23年も残すところあと数ヶ月になりましたが、今年は東日本大震災、台風12号に伴う豪雨など、大きな災害が我が国を襲い多大な被害を受けました。そのような中、10月に国立病院総合医学会が岡山で開催され、この学会のスローガンは「明日の治療のために：チャレンジそしてチェンジ」でした。チェンジという単語は、先の米国の大統領選でオバマ氏の代表的な言葉として流行語にもなっており、米国民もそのチェンジに大きな期待を抱いていたように思います。しかし、国民にとって期待通りにはなっていないようで、米国各地でデモの様子が毎日のように報道されています。国という大きな組織はもちろん、病院という単位でみても、組織をチェンジするということは簡単なことではありません。組織を変化させるには、問題点を抽出し、解決のためにチャレンジし、その結果チェンジを起こすことができると考えます。つまり、チャレンジはチェンジのためには必要不可欠のことと思いますし、チャレンジそしてチェンジは私達の病院にとって維持していくべき重要なテーマであります。

「できることからはじめよう！」は国立病院機構のQC活動のスローガンですが、これは職務・職責を超え互いに協力し合い、様々な業務の改善や質の向上に取り組むことを目的としたもので、毎年、優れた功績に対して総合医学会において表彰が行われています。高知病院から報告したQC活動もしばしば優秀賞を受賞しておりますが、今年も4階南病棟の「ベビーマッサージでハッピースマイル」が選ばれました。もちろん表彰されることが目的ではありませんが、QC活動に積極的に参加していくことが重要であり、そのためには改善すべき点を受け身の立場ではなく自主的に見つけ出し解決方法を具体的に筋道をたてて組み立てていくことが必要です。また、同じように個人においても「できることからはじめよう」を実践することで成長することが可能と考えます。

職員一人一人が、日常の仕事の中から自らの目標をたてそれに挑戦していくことで、変化し進化することができると思います。「チャレンジそしてチェンジ」「できることからはじめよう」言葉はことなりますが、新しい世界を作り出していこうとする意識を意味しているように思いますし、このフレーズは社会、組織、そして個人すべてに当てはまるように思います。医療も多くの問題を抱え大きく変化していくことが想定されます。

高知病院がこの流れの中で地域に信頼される病院として存在していくためには病院職員の一人一人がチャレンジそしてチェンジを意識し、できることからはじめようのスローガンのもと病院チーム一丸となってよりよい病院に進化させていかなければなりません。これからも、今まで以上に職種を超えお互いに協力し合い患者さんにとって、また、職員にとってもすばらしい病院となるように頑張っていきましょう。

呼吸器センターの開設

臨床研究部長　篠原　勉

当院では平成23年８月１日から、呼吸器内科と呼吸器外科を統合して「呼吸器センター」を開設し、全ての呼吸器疾患の病床を６階北病棟と６階南病棟に集約することとしました。

呼吸器疾患で苦しんでいる患者さんに、内科から外科にいたるまで切れ目のない医療を提供することが目的です。

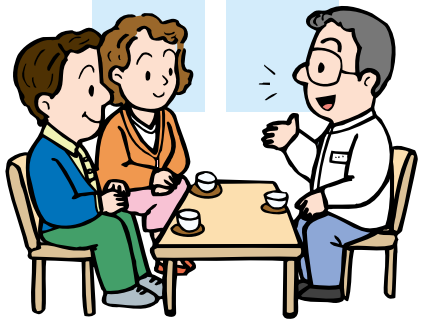
呼吸器内科医と呼吸器外科医のみならず、放射線科医や病理医、さらには看護部、リハビリテーション科、薬剤科、放射線科、臨床検査科、栄養管理室部門などのコメディカルとも連携をより密接にして、診断および治療をより迅速に展開できる体制となりました。

また、国立病院機構が積極的に推進している呼吸器疾患の治験や臨床研究も効率的に実施することが可能です。現在当院は、国立病院機構における肺癌の大規模臨床研究の登録集において、全国で最も多い施設となっています。

呼吸器センターを充実させて行くことは、不足している呼吸器科の若手医師の育成にも貢献できるものと考えており、後期臨床研修医の受け入れに向けたカリキュラムも作成中です。

今後は、外来患者さんを交えた各種呼吸器疾患の患者教室の開催や、機関誌の発行およびホームページの更新による情報発信等により、患者さんのニーズに応えて行きたいと考えています。

呼吸器センターに対するご意見等があれば、主治医や病棟スタッフに気軽にお話頂ければ幸いです。引き続き当センターの運営にご協力をお願い申し上げます。



がんに関する市民公開講座の開催

診療部長　井上　修志

近年、我が国における3大死因はがん、心疾患、脳血管疾患で全体の２/３を占めている。この中ではがんが最多で３割を占めている。高齢化の影響もありがんに関しての年齢調整率は死亡率、罹患率とも横ばいか、やや減少傾向が見られるが、がんの死亡数は増加し、粗死亡率の上昇、またがん罹患数も増加、粗罹患率も上昇している。その中でも死亡数の多いがんとしては男性は呼吸器がん、女性では大腸がんが一位となっている。これらの事より地域住民の人々が、がんに関しての興味を持つのは当然の成り行きと思われる。今回、院内において市民公開講座を開催でき多数の方の参加を頂いた事はトピックなことで、また有意義な事であったと感じられた。

今回は呼吸器、消化器、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科それぞれの領域のがんについての講演が行われた。

呼吸器領域においては岡野医長が肺がんを中心に講演され、予防対策としての禁煙の重要性と受動喫煙も肺がんリスクとなること等、また禁煙外来についての説明も行われた。

消化器領域においては私がヘリコバクターピロリと胃がんの関係、肝炎ウイルスと肝がんの関係について講演を行いその対策についいても話したが、肝炎に関する治療は新しい薬剤の開発や、インターフェロン治療の保険適用の変更等があり新治療に関しての詳しい話は次回の機会とした。

耳鼻科領域では関根医長がやや一般にはなじみの薄い領域のがんについて解剖学的な部位から治療までわかりやすく講演された。

皮膚科領域では、三好医長がスライドを駆使するとともに、非常にわかりやすい説明で参加した皆様に好評であった。

最後に泌尿器領域では渡邊医長が前立腺がんについて講演され、生活環境の変化や高齢化で罹患率は上昇していること、そのスクリーニング検査は比較的容易に血液検査で出来る事より早期発見が可能であり、検診を受けることを推奨した。いずれにしても一次予防の重要性と早期発見のための検診が必要である事が強調された。参加者はこれらの講演を熱心に聞かれていた。

今回は時間の関係で質問は受けられなかったが、地域住民の方々へのさらなる啓蒙、インフォームドコンセントを高めるためにも今後は参加者との質疑応答等も必要となると思われた。市民公開講座はがん予防、がん検診および検査、治療の効率化を図るためにも有意義であると考えられた。

地域医療連携室

第3回ＮＨＯ高知病院 地域医療連携連絡会をおえて

地域医療連携室　医療社会事業専門員　菅谷 真利子

8月6日(土)、第3回ＮＨＯ高知病院地域医療連携連絡会を開催いたしました。本会は、日頃より大変お世話になっております地域の医療機関の皆様方との交流を目的に、一昨年より毎年１回開催しております。今年の第3回目は、地域の医療機関より35名のご参加をいただき、また院内からも80名の職員が参加し、計115名の出席がありました。今年も盛大に執り行うことができました。

内容は例年同様の2部構成で、①地域医療連絡会、②意見交換会としました。①地域医療連絡会では、当院の各診療科の医師紹介を行いました。地域医療連携室長の日野呼吸器外科医長が進行し、診療科ごとに作成したスライドを使い紹介していきました。

さらに、今年8月に開設した呼吸器センターのご案内を行いました。呼吸器センターは、呼吸器疾患で悩んでいる患者様に診療科の壁を越え内科から外科にいたるまで切れ目のない医療を提供することを開設目的としております。②意見交換会では、高知県・高知市・高岡郡医師会会長よりご挨拶をいただき、会も和気藹々と進みあっという間に意見交換会が終了しました。

当院は、今後もより一層の進化をしていきたいと思っております。また皆様にご報告できるよう努力していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

日本医療マネージメント学会開催

内科医長　岩原　義人

去る8月21日、高知市のかるぽーとにおいて日本医療マネジメント学会高知支部学術集会が開催されました。さて、今日患者さんの医療に対する意識は大きく変貌しており、私たちは患者さんに良質で安全・安心な医療や看護を提供するため、常に医療・看護の管理と運営の向上を意識していなければならない時代だといえます。このような背景からか、県内の医療従事者の関心も大変高く、申込み演題数が当初の予想をはるかに上回り、このため口演の発表時間は1題７分の予定であったのが、１題５分に短縮されてしまいました。

発表の分野は、クリティカル・パス、医療安全、院内感染、医療連携、電子カルテ、医療経営、NST、人材育成・教育、患者サービスなど大変多岐にわたっており、また今回は東日本大震災後ということで、当地での救護・医療活動についての貴重な報告も追加されました。また当院からは８演題の発表があり、２名が座長を務め、活発な質問や意見交換がなされました。私は当院ICTの代表として、拡がると大変厄介な院内感染症であるクロストリジウム・ディフィシル関連下痢症についての当院での臨床的検討を発表させていただきました。院内感染防止に関心の高い先生から幾つか質問をいただくことができ、充実感を得ることができました。今後とも感染管理の立場からマネジメントにかかわっていきたいと心を新たにし、「もしドラ」を読もうと決意した次第です。

国立病院機構QC活動優秀賞を受賞

副看護師長　明﨑　祐子

当院では平成21年1月からベビーマッサージ教室を開催しています。このたび当院でのベビーマッサージの活動が、平成23年度国立病院機構QC活動で優秀賞を受賞しました。ベビーマッサージを行うことによって、児の身体的・情緒的な発達や、父母の児への愛着形成を促します。現在、核家族化が進み育児の相談をする相手も少なく、不安や悩みを抱えている母親は多いです。当院でのベビーマッサージ教室の目的は、退院後も助産師が母親と関わることにより、母児の愛着形成を促し育児の不安を少しでも軽減させ、また母親同士の交流の機会を作ることです。

開設から1年間は自分達が考えた手技を提供していました。近年、虐待や育児放棄が増加している中でベビーマッサージは注目されており、自治体が公共事業として行っている県もあります。私達は確かな技術を提供したいと考え、平成22年4月に「ピーター・ウォーカー・ベビーマッサージ」インストラクター認定資格を師長と助産師2名が取得しました。認定資格取得後は内容・宣伝方法の見直しや、健康フェスタでベビーマッサージ教室を行いました。

現在、参加者は定員10組のところに毎月平均16組の参加があります。多い時には20組以上の参加もあり好評を得ています。参加者対象のアンケート結果では、約9割が「また参加したい」と回答し、リピーター率は10割に近いです。また、ベビーマッサージ終了後に助産師に育児相談をしている母親もおり、母親の育児不安軽減の場にもなっています。対象は当院で出産した乳児とその母親ですが、教室に参加した母親からの「クチコミ」によって他院で出産した母親からの問い合わせも増えてきています。最近では季節の行事を取り入れた工夫（2月は担当助産師が鬼の面を付けてミニ豆まきを行った）をしています。今後も参加者の満足が得られるように質の向上を行っていきたいと思います。ベビーマッサージを通して、1人でも多くの母親が自信を持って育児を行うことができるようにサポートしていきたいと思います。

※写真掲載に同意を得ています

「５Ｓ活動　第１位　ＭＥ機器室」

主任臨床工学技士　林　博英

「５Ｓ活動」ご存知ですか???

整理・整頓・清潔・しつけ…私はいつも５つ目のキーワードが思い出せません。

５Ｓとは、「整理」・「整頓」・「清掃」・「清潔」・「しつけ」の５つの頭文字が「Ｓ」となっていることから５Ｓと呼ばれています。５Ｓに基づいた業務管理を５Ｓ活動と呼びます。

５Ｓ活動による効果は、職場環境の美化、従業員のモラル向上などが挙げられ、間接的な効果として業務の効率化、不具合の未然防止、安全性向上などが挙げられます。当院では、「病院業務のリスク低減と作業効率向上」を目的に、つまり、患者さんの安全確保、医療サービス向上のために、この活動に取り組んでいます。

今回のＭＥ部門の活動は優秀だったと、多くの職員の方々に投票していただきました。

ＭＥ部門の紹介を少し…

ＭＥ（臨床工学技士）部門は、ＭＥ機器（医療機器）の操作・保守・点検・管理を行うことでチーム医療に貢献しています。修理や点検には細かな作業を伴います。明るく広い作業空間が必要です。逆を言えば、適切な作業環境が整っていなければ、故障や破損などの不具合を見落とすこともありえます。医療に携わる者として、あってはならないことです。

今回は、現在の作業環境に見直す点はないかということを念頭に活動に取り組みました。

見直す点は…恥ずかしながら多々ありました。

廃棄待ちの機器を捨て、棚を移動・整頓し、廃棄待ちのシャーカステン（レントゲン写真を見るための照明器具）を再利用し、「明るく広い作業空間」を整備することができました。

そろそろ老眼を懸念する歳になりました。老眼だからと機器の不具合を見落とすことは許されません。手術室の無影灯には敵いませんが明るさにはこだわりました。

病院を挙げての大掛かりな活動は年に１度です。しかし、５Ｓは一時的な活動ではなく、継続しさらにステップアップしていく必要があります。

今後も地域の皆様に信頼され続ける病院であるため、ＭＥ部門は信頼性の高いＭＥ機器を提供し、チーム医療に貢献できるよう努めます。

薬剤師吸入指導研修会開催

薬剤科長　久保　英治

平成23年７月26日（火）、高知市薬剤師会・高知県薬剤師会高吾支部を対象とした吸入指導研修会（会場：NHO高知病院地域医療研修センター）を開催しました。

この研修会は高知病院と地域の薬剤師との連携を深め、外来患者の吸入ステロイド薬のアドヒアランス向上を目指して、服薬指導を行う薬剤師の指導方法の標準化をはかり、高知病院と地域薬局薬剤師との情報共有体制つくりを目的に薬剤師会との共催で日本薬剤師研修センターの認定を受けました。

大串院長の開会挨拶の後、篠原臨床研究部長の司会で始まり、畠山呼吸器科医長に【薬剤師に期待する吸入ステロイドの指導・気管支喘息と治療】のテーマで、①成人喘息の定義、②喘息の性差・発症年齢・合併疾患③喘息発作の強度と症状と自分での処置④気道炎症とリモデリング⑤喘息発症・憎悪の機序⑥喘息予防・管理ガイドラインの治療目標⑦早期治療介入による喘息コントロール⑧喘息のコントロールに向けて（喘息死ゼロを目標に）等々について興味ある内容をわかりやすく講演して頂きました。

つづいて、高野薬剤師が当院での吸入指導の流れと指導記録についての説明、最後に各吸入ステロイドの指導のポイント・注意点についての説明で予定時間の90分となりました。

当日は火曜日の午後７時からの開催でありましたが、40数名の地域薬局薬剤師が参加してくれました。参加者のアンケートには「吸入ステロイドについての理解が深まった」、「指導の大切さがわかった」、「参加して良かった」等、さらに「定期的に開催してほしい」、「テーマをしぼってシリーズで開催してほしい」「次回も参加したい」等の意見がありました。

薬局薬剤師が患者指導を行うには、処方医師と統一した考えで、指導を行うことが必要であり、今回処方医師の処方意図を具体的に聞くことが出来大変参考になったことと思います。医師と患者さんの間に立って、患者さんからの情報をフィードバックしたり、最新のエビデンスに基づいた正しい知識で患者さんを指導するのが薬剤師の重要な役目であることから、さらに地域の薬剤師との連携を強化し、情報を共有することが地域住民に良質で安心・安全な医療を提供することにつながると考えますので、研修会の定期的な開催を継続していきたいと思います。

医療安全管理室だより

「院内暴力発生時のロールプレイング」研修を実施

医療安全管理係長　森山　万智

病院を訪れる患者さんは、苦痛を伴う症状や不安など辛い思いを抱えている方が多いので、医療現場での暴力行為はやむをえない行為として許容（我慢）される傾向にありました。しかし、最近では、その行為が過激化し、患者さんの疾病や症状が原因でないケースが増え、医療者は対応に苦慮し、精神的な負担が増しています。これは当院でも例外ではありません。そこで、７月28日、医療現場で発生する暴力行為（暴行、脅迫、強要、暴言、セクハラなど）から、患者・家族と職員を守り、安全と安心を確保するために、組織または個人としてどのような対応をすべきなのかを学ぶ事を目的に「院内暴力発生時のロールプレイング」を開催いたしました。

当日は、高知南署の警察官と高知県警110番司令室にご協力を頂き、救急外来診察室と病棟ナースステーションと見立てた会議室を使い、職員が患者役、看護師役、医師役等になりきり、２場面の院内暴力発生ロールプレイング＜成功編＞を実施しました。そして、事例発生の報告を受けた医療安全管理委員会が、その後どのような対応を行うのかをロールプレイングで伝えました。

ロールプレイング終了後の参加者による意見交換では、「怖いと思ったことは言葉で表現し、その方にすぐに返した方がいい事がわかった」「自分だけで対応しようと思わなくていい事がわかった」「周囲の職員が気づいて応援を呼ぶ動きをとることが大事」といった個人として対応の理解が得られました。また、警察官からは病院と警察の連携の重要性など、貴重な意見も提示され有意義な研修となりました。

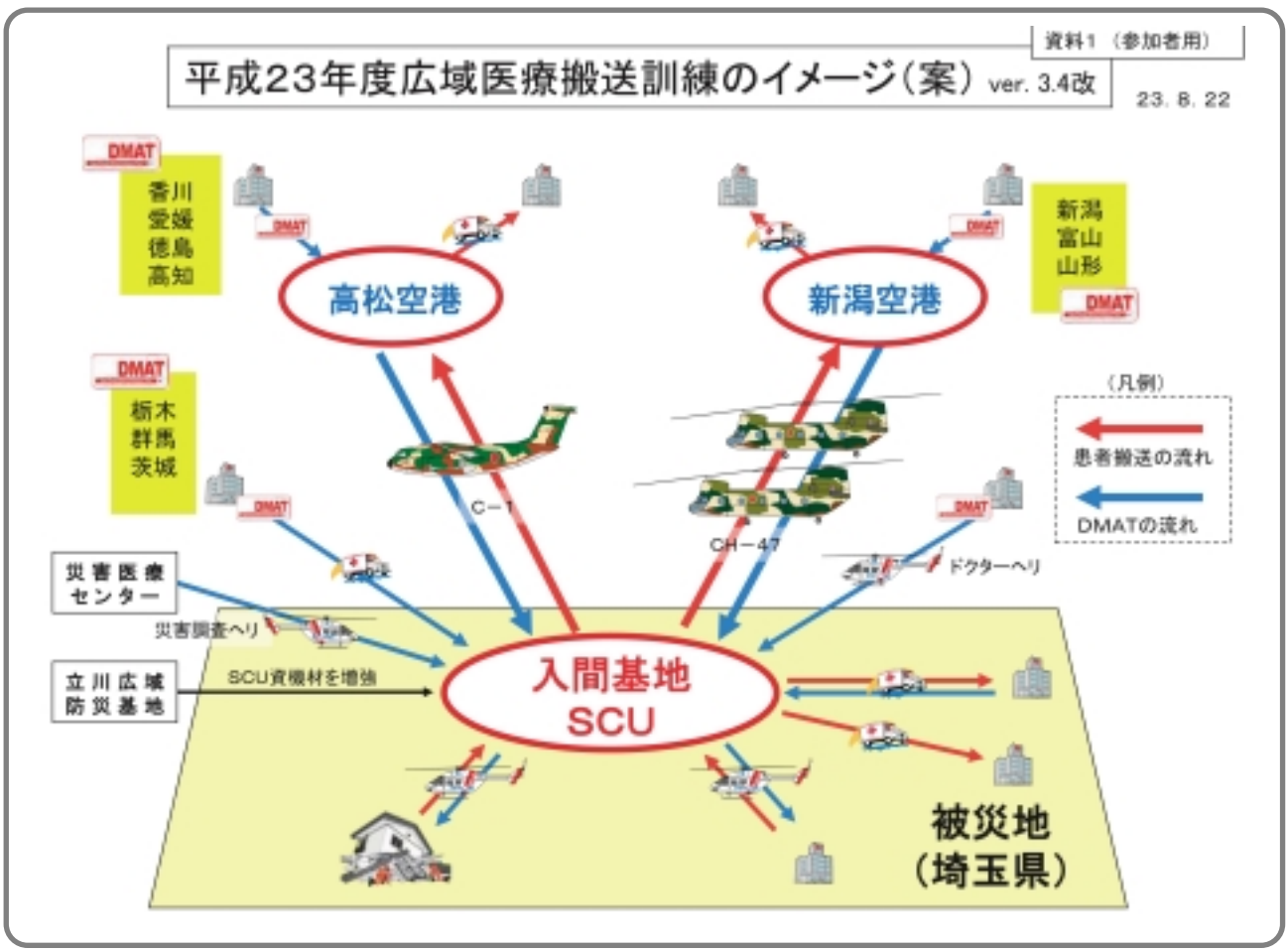
全体を通して、院内暴力発生時には組織的に毅然とした対応が重要で、「病院組織がスタッフを守る」という考えを基本として取り組む必要があること、それと共に、患者・家族と医療者とのコミュニケーションの向上を図ること、双方の満足度を高める必要があることなど、まだまだ沢山の課題を抱えていることも知ることができた研修となりました。

広域医療搬送訓練に参加して

看護師　河村　ひとみ

9月1日、平成23年度政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練に、高知病院ＤＭＡＴチームが参加してきました。今回の訓練は、1)首都直下型地震を想定　2)広域医療搬送拠点(ＳＣＵ)を入間基地・高松空港・新潟空港に設置　3)入間基地のＳＣＵから高松空港及び新潟空港のＳＣＵへ広域搬送　4)高松空港及び新潟空港のＳＣＵから被災地域外受入病院まで患者搬送、という概要で９都県市、自衛隊、消防などと合同で実施されました。実際に、自衛隊機にて入間基地－高松空港及び新潟空港間を飛行し、機上訓練を行ったチームもいますが、私達のチームは高松空港に参集し、ＳＣＵにおけるＤＭＡＴ活動の訓練に参加しました。被災地から広域搬送されてきた患者を受け入れ、応急処置、搬送の優先順位を決定、受け入れ病院への搬送までと、被災地内のＳＣＵを想定し、広域医療搬送患者の受け入れ、応急処置、広域医療搬送基準に該当するかの再確認、搬送の優先順位を決定、被災地域外への搬送までの内容で行いました。今回の訓練で、平時の医療とは異なり、トリアージや救急措置を行なうために通常医療行為を行わない場所に設置されたＳＣＵ内で、限られた医療資器材を用い、あらゆる地域から参集した他のＤＭＡＴチームと共に医療活動を行うことの困難さをあらためて実感しました。

私たちは、今年1月に結成したばかりの新米ＤＭＡＴチームですが、今後も訓練・研修などに参加して災害時の迅速かつ確実な活動ができるよう、知識・技術を身につけていきたいと思います。



Ｃアーム型デジタルＸ線ＴＶ装置の更新

ＲＩ検査主任　阿部　耕三

当院では、Ｃアーム型デジタルＸ線ＴＶ装置を更新し、平成23年10月1日より運用を開始しています。従来の装置に比べ、大きく鮮明な画像を少ない被爆で撮影出来ます。また、患者さんの体を動かすことなく真横を含むさまざまな方向で透視撮影が出来る為、検査の負担も大きく減っています。

主な特長

1．Ｘ線検出機には、最大視野40×30cmのFPDが採用されています。従来型のI.Iに比べ低被曝でなおかつ高画質な画像を対象部位に応じた最適な視野で得る事が出来ます。

2．ワイドレンジ、低ノイズのFPDの性能に加え、リアルタイムでコントラストを改善する画像処理技術により、従来は黒くつぶれていた領域も診断可能になりました。

3．透視台以外の設置ユニットが１つになったため天板回りに広いワーキングエリアが確保できました。被検者の両側から手技・介助が可能です。

4．Ｃアームによってラテラル位を含む多方向からの検査が可能です。特に体軸方向の可動域が広がった為、被検者を動かす事無くほぼ全身の観察が可能になりました。多彩なＣアームの可動域に対応して天板との干渉を自動回避するトラッキングモードも充実しており、安全性も向上しています。また、天板は床面から49cmまで下がる為、被検者の乗降も容易になりました。

第2回院内発表会を開催しました

院内発表会「褥瘡評価・管理アプリの開発」

10月１日(土)に院内発表会を開催し、職員から19題がエントリーされました。院内発表会はそれぞれすばらしい内容でしたが、その中で第１位に輝いた発表を紹介します。

皮膚科医長　三好　研

2002年、褥瘡を評価するための基準となる「DESIGN」が公表され、初めて全国どこでも同じように褥瘡が評価できるようになりました。ところが2008年に公表された改良版の「DESIGN-R」では、7項目それぞれに点数をつけて「深さ」以外の項目の合計点を算出しなければいけなくなりました。評価を行うためにはそのつど評価用紙に記入する必要があるため、せっかく考案されたDESIGN-Rが必ずしもすべての施設では利用されていないのが現状です。

近年、スマートフォンとよばれる多機能携帯電話が普及しつつあります。その中でも、操作性に優れウイルス感染のリスクがほとんどない米アップル社の「iPhone(アイフォーン)」は医療分野でも注目されており、これまでに様々な医療系アプリが登場しています。褥瘡診療にも役に立つだろうと考えていたのですが、残念ながら褥瘡関連のアプリはありませんでした。そこで、全国の褥瘡回診を行っている医師やWOCナース(皮膚・排泄ケア領域の認定看護師)の負担を少しでも軽減したいと思い、褥瘡の評価と褥瘡患者さんの管理が簡単にできるアプリを作成することにしました。

このアプリでは、評価の入力は項目ごとにリストより該当するものを選択し〈次へ〉のボタンをタップするだけです。サイズは長径と短径の値のみ入力すればよく、すべての項目の入力が完了するとDESIGN-Rの総点が自動的に算出されます。また、あらかじめ次回診察日を入力しておくと、当日の診察患者リストが自動的に作成されます。さらに、写真も撮ることもできるため、いつでも経過を確認することができます。

このアプリによってDESIGN-Rを知らなくても総点の算出が可能となり、評価にかかる時間も短縮できます。また、iPhone(iPod touch)さえ持って行けば、何冊ものカルテやカメラをベッドサイドに持ち運ぶ必要はなく、往診のフットワークも軽くなります。このアプリの登場によってDESIGN-Rによる褥瘡評価が広く普及し、褥瘡診療のレベルアップがはかられることを期待しています。

ふれあい看護体験を実施して

副看護師長　橋田　寿子

7月26日のふれあい看護体験に看護・医療に興味のある高校生35名の参加がありました。今年は、「患者様とのかかわりを通して、他人を思いやること、助け合うことの大切さを考える機会とする」「看護にふれ臨床現場での看護師の仕事を理解する」という目的で実施しました。

初めて参加する方や毎年参加をし、将来への思いを膨らましたりとそれぞれの背景は違いましたが、看護について考えていく機会となりました。

「病院の概要」「看護とは」「看護師の仕事」などについて、看護部長から説明を受けました。その後、原感染管理認定看護師の講義を受け、手洗いの体験をしました。

病棟での看護体験では、担当看護師から各病棟のオリエンテーションを受け、患者さんのもとで生活援助の実際を見学、体験し、オーダリングシステムや、処置の介助などの診療補助業務などについての説明を受けました。

高校生は、緊張のためか、意思表示や行動が消極的でしたが、病棟での看護体験後は、表情も明るくなり、意見交換会では、看護体験の感想や学んだことを積極的に話し合うことができました。

また、高校生から、患者さんへのいたわりの言葉や、患者さんからの感謝の言葉に喜びを感じたと言う意見も聞かれました。さらに病棟での看護体験をしたことで、看護師を目指す気持ちが強くなったなどの意見が聞かれました。

私達、担当者も、ふれあい看護体験の一日を通して、高校生からの若いパワーを得ると共に、看護を目指した自分を振り返る良い機会となりました。

―手作りリーフレットのご紹介―

昨年度より、当地域医療連携室では、連携施設のリーフレットを作成しております。
地域医療連携室スタッフが、慣れないPCを駆使して作成した手作り感あふれるリーフレットです。その中から、一部ご紹介いたします。

リーフレットは外来に設置閲覧、広報誌に掲載、必要時患者さんに配布等させていただいております。地域医療連携室では、上記リーフレットにご賛同いただける施設を募集しております。下記連絡先までご一報下さい。

地域医療機関の皆様へ

患者さんのご紹介・現在入院中の患者さんの問い合わせ・リーフレットについて 等…

088-828-4465　地域医療連携室までご一報下さい。　**平日 8:30～18:00まで対応いたします。**

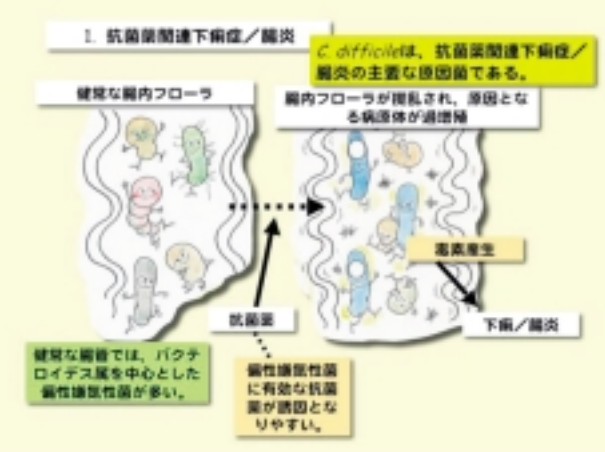
抗菌薬関連下痢症「クロストリジウム・ディフィシル」について

感染管理認定看護師　原　昭恵

今回は、抗菌薬関連下痢症の主要な原因菌といわれる、ちょっと聞き慣れない名前の「クロストリジウム・ディフィシル」についてとりあげます。

抗菌薬を長期間使用すると正常な腸内細菌のバランスがくずれ、クロストリジウム・ディフィシルという菌が増殖し毒素（トキシンA・Bなど）を産生することで、下痢や発熱を伴う腸炎などを発症することがあります。偽膜性大腸炎や時には消化管穿孔を起こし手術が必要となるなど、軽度から重篤例まで症状には幅があります。抗菌薬関連下痢症の20～30%、発熱や白血球数増加を伴う腸炎においては50～70%に本菌が関与するといわれています。治療としては、可能な限り誘因と思われる抗菌薬等の使用を中止します。症状が改善しない場合や重篤な場合は、メトロニダゾールやバンコマイシンなどこの菌に有効な抗菌薬による内服治療を行います。

院内で感染を拡げないために、医療者は抗菌薬を長期に使用している患者さんに頻回の下痢等の症状が出現したら、この菌も疑い早めに対応することが大切です。アルコール製剤による手指消毒はこの菌には無効です。日頃から排泄物の取り扱いには注意し、特に下痢のある患者さんのケアを行った後には石鹸と流水での手洗いを徹底しましょう。



夏祭り

今年もよさこいがやってきた

主任児童指導員
山内克己

今年も高知病院の夏の風物詩のよさこい踊りの慰問が、８月10日にありました。四国労働金庫のみなさんです。今回は子どもから大人まで老若男女総勢120名で、元気あふれる踊りを見せていただきました。四国ろうきんさんは、今年創立10周年で、「感謝」をテーマとしてよさこいに参加されています。大変暑い中、笑顔を絶やさず、一生懸命踊っている姿は、いつも感動します。ありがとうございました。やはり高知の夏は「よさこい」に限ります。

花火大会

今年は、楽しみにしていた高知市納涼花火大会の見学が中止になり、８月26日の病院の花火大会だけになりました。また今回は中病棟が感染症のため、中病棟と療育訓練室の二つに分かれて行いました。

療育訓練室には早々と、北病棟・南病棟から集まってきました。季節の歌を歌ったり、保育士のパフォーマンスがありました。中病棟にも出張パフォーマンスに行きました。

暗くなると、中病棟の中庭と広場に分かれて花火の打ち上げ開始です。２カ所に分かれて行ったため、多少煙の量が多くなりましたが、過ぎゆく夏を思いっきり楽しめたことと思います。

節電対策への取り組み

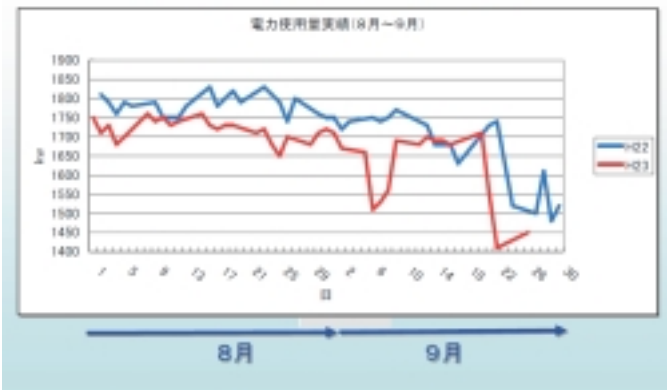
庶務班長　伊藤　真之

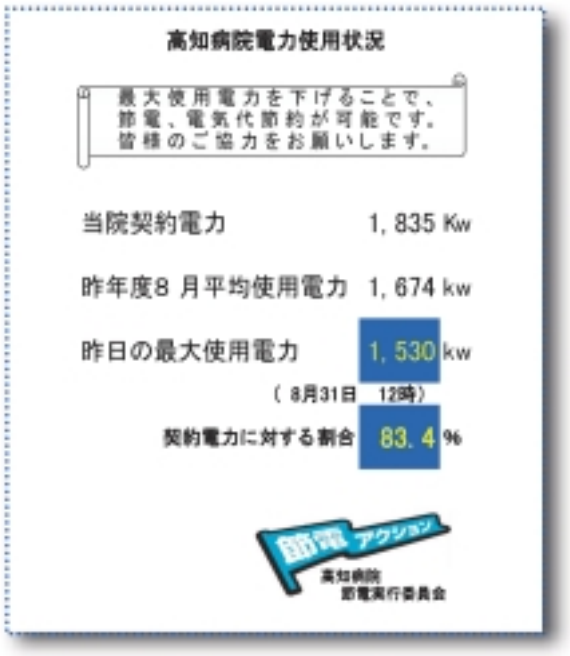
当院では今夏、全国的な電力の供給不足から「節電」への取り組みを行いました。各部署で節電目標を立てるとともに、「節電実行委員会」にて“エアコン使用の縮減”を目標とし①病棟での最低設定温度の引き上げ②電力使用の多い時間帯での院内ラウンド③各職場でのチェックシートの記入などを行い、前日の最大電力使用量を日々院内の数カ所に掲示し、情報提供しました。

これらの取り組みにより、8月の最大電力使用量は前年度比マイナス3.2%、電力使用量ではマイナス4.8%とすることができ、さらにエアコンの稼働に使用する重油についてもエアコンの使用縮減にあわせて減り、電力使用量と重油使用量の合計では前年8月比マイナス79万円となりました。また、最大電力使用量の縮減により契約電力量を下げることができ、今後1年間の電力基本料の試算では、約100万円を節減できる見込です。

患者さん、職員の皆さんには、ご不便をお掛けいたしますが、節電の継続に今後ともご協力をお願いいたします。

最大電力使用量実績の推移（8月→9月）





叙勲のお知らせ

この度、前看護部長　C橋幸子様が、長年に亘る看護業績に寄与された功績により『瑞宝双光章』を受章されました。
職員一同心よりお慶び申し上げます。

宿泊研修～室戸青少年自然の家～

１年生　武井　理恵

私達49期生は、入学して３カ月が過ぎ、１クラスしかないこともあり、これまでの学生生活でとても親しくなりました。梅雨も終わりかけの７月７日、私達は一泊二日で、室戸青少年自然の家へ宿泊研修に出発しました。クラス全員が１台のバスに乗って、道中はバスのレクリエーション係によるクイズなどが行われ、とても楽しく盛り上がり、あっという間に現地に到着です。室戸青少年自然の家では、１日目に体育館でのドッヂボール、夕食は自然いっぱいの野外での飯盒炊爨やカレー作りを行いました。

（＾ｏ＾）おいしそうでしょ♪

スポーツもご飯作りもそれぞれで班を作って協力し合います。ご飯作りでは薪に火をつける人、野菜をカットする人、調理する人などすばらしいチームワークでおいしいカレーを完成させ、お腹いっぱいに夕食を食べる事ができました。班のメンバーで作ったカレーとご飯とサラダの味は忘れられません。私達の班は、一品一品を大絶賛しながら食べました。また食べたい最高の夕食です。

２日目は、体育館にてチーム総当たり戦のバレー対決を行いました。担任の岡本先生と副担任の小林先生も一緒です。バレーはこの３カ月間、体育の時間にみっちり練習していたのでみんなのレベルも上がって真剣そのものです。私はバレーが下手ですが、チームの上手なメンバーが声をかけて励ましてくれるので、数時間に及ぶ試合の間に７月中の汗を全部かいたのではないかと思うくらい頑張ることができました。

さて、旅の楽しみといえばやはり食です。汗をかいた後のお昼のバイキングは、栄養をきちんと考えられた副菜盛りだくさんの献立で嬉しかったです。また今回は、ものすごい濃霧の中の２日間でしたが、四国はこの日に梅雨明けとなり下界では真夏日だったにもかかわらず、室戸青少年自然の家ではとても涼しく、本当に楽しく過ごす事が出来ました。

これらの宿泊研修のスケジュールも宿泊研修係を中心にクラス全員で計画したものです。私達はこの学校に来て自分たちが主体性を持って行動することの大切さを学びました。そして同じ目標に向かって行動するためには、チームワークが大切です。この研修を通して、私達は自分の出来るところを積極的にやることで、自然と仲間がそれぞれに出来るところを見つけて助け合いました。そしてやり遂げた時に同時にすばらしいチームワークが生まれていたのです。これからの３年間ここで得たチームワークを活かし、共に学び成長していきたいです。

外来診療担当医表

（平成23年11月1日現在）

■受付時間 8:30～11:00　整形外科･火曜日は 8:30～10:00 です。　■休診日 土曜･日曜･祝日･12月29日～1月3日

国立病院機構のシンボルマーク
独立行政法人 国立病院機構 高知病院
〒780-8077　高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL(088)844-3111　FAX(088)843-6385
http://www.hosp.go.jp./~kochihp
高知病院のシンボルマーク

診療科	区分・診察室番号			月	火	水	木	金
内科	午前	1診	⑫	岸	篠原・岡野	篠原・中野	町田・中野	畠山・飛梅
		特別外来	⑪	松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後	専門外来						
神経内科			⑰	不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器科 アレルギー科	午前	1診	⑧	篠原　勉	大串　文隆 (リウマチ科も診察)	畠山　暢生	大串　文隆	岡野　義夫
		2診	⑥			町田　久典		
	午後	専門外来					禁煙外来 14:00～15:30(予約制)	
消化器科	午前		⑨	井上　修志	友兼　毅	担当医	井上　修志	友兼　毅
循環器科	午前		⑦	山﨑　隆志	西村　直己		山﨑　隆志	
	午後	専門外来					ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科			⑩	松森　昭憲 (糖尿病も診察)	大串　文隆	大串　文隆		松森　昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	午前	1診	①	小倉　英郎	小倉　英郎	武市　知己	小倉　英郎	武市　知己
		2診	②	大石　尚文	井上　和男	寺内　芳彦	大石　尚文	高橋　芳夫
		3診	③	寺内　芳彦			井上　和男	小倉由紀子
	午後	専門外来		神経･発達障害	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	ｱﾚﾙｷﾞｰ･化学物質過敏症 NICUフォローアップ	神経･発達障害 乳児健診
		予防接種		14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)
外科	午前		⑤	大塚　敏広 (乳ガン検診も実施)	福山　充俊 (乳ガン検診も実施)	山崎　誠司 (乳ガン検診も実施)	福山　充俊 (乳ガン検診も実施)	井川　浩一 (乳ガン検診も実施)
	午後	専門外来			福山　充俊 乳腺外来		日野・福山 乳腺外来	
整形外科	午前	1診	①	篠原　一仁	兼松　次郎	小林　享	篠原　一仁	田村　竜也
		2診	②					
脳神経外科	午前		⑧	非常勤		非常勤		非常勤 10:00～
	午後	専門外来						
呼吸器外科	午前		⑦		日野　弘之		日野　弘之	
小児外科	午前		⑤					
皮膚科	午前		⑬	三好　研	三好　研	三好　研	三好　研	三好　研
泌尿器科	午前		⑨	渡邊　裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 久野(偶数週)	笠原高太郎	渡邊　裕修
産科	午前		㉟	原田　裕子	福家　義雄	福家　義雄	小林　文子	菊地真理子
	午後							
婦人科	午前		㉛	福家　義雄		小林　文子	原田　裕子	原田　裕子
眼科	午前		㉓	戸田　祐子	戸田　祐子	戸田　祐子	戸田　祐子	戸田　祐子
耳鼻咽喉科	午前		⑯	関根　和教	関根　和教	関根　和教	関根　和教	関根　和教
リハビリテーション科								
放射線科				小松　幸久	塩田　博文	松岡　葵	塩田　博文	小松　幸久

※　内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。